

癒しと元気発信。今、コロナ問題。話が、久楽迎古のプロファイル・個展歴は、和紙・夢絵作家に進路変更した2,000年から記述。実は、それ以前に、写真展を各地で開催、京都ホテルオークラ曲水の間・東京銀座鳩居堂・大阪丸ビルで2回ほか、個展開催。

大きな作品も制作している。それらの全作品を、京都・東京・千葉、熊本、ほか、海外でも、

癒し系ということで、個展後、各地の病院に写真作品を寄贈させて戴いた。

いろいろ、お礼の手紙を頂いた。私の方が、感謝したいくらい、元気と勇気もらった。

まさに、いい思い出は、心の財産。今も、頑張れる、心の支えでもある。

そんな経緯が、熊本にはあった。下記、文面にある緒方さんは、厚生技官だった。

今、コロナ問題で、その部署も大変な時期。心配。思い出した次第。

陽春の候となりましたが、病院の桜は満開です。

このたびは、緒方敏雄さんを通して、菊池病院に貴重な写真をご寄贈頂き、感謝いたしております。早速、応接室と外来に展示させていただきました。

国立療養所菊池病院は25年前に結核療養所から精神科病院に転換いたしました。痴呆性老人病棟、精神科病棟、重症心身障害児（者）病棟を持つ、230床の小さな、「こころと脳の専門医療機関」です。敷地は広く3万6000坪あり、市街地から離れ、自然に囲まれた静かな環境にあります。

外来のホールや廊下に久楽迎古様の写真を展示しています。患者様が立ち止まって眺めておりますが、写真を見ての感想は、「澄んでいますね、落ちつきますね、元気がでます。」などと、感想を述べられますので、ひとしきり写真談義になり、健康な姿を見せてくれます。なお、「古い蛇口から勢い良く澄んだ水がでている」写真は、不思議な魅力があるようで、好評です。展覧会場で見るのと、病院の廊下で見るとでは、一枚の写真の訴えるものが違ってくるのが不思議です。

貴重で高価な写真を有難うございました。時期がきたら、病棟を廻して展覧する計画です。



菊池病院再訪時、熊本は雪だった。

2013年、往路中山道69次、帰路東海道53次、2017年、函館から京都まで。
鹿児島～京都間は、2015年8月。2016年（平成28年）4月、震度7の熊本大地震。

心が痛んだ。人生には、いろいろな試練が伴うことを実感。

熊本大地震は、この旅の8ヶ月後のこと、ショックで、書けなかった。
熊本県の象徴である、熊本城や水前寺公園、崩壊した阿蘇大橋、等々、復興の途上。

嬉しいニュース。どこかの時点で、再訪したいと思っている。

